

## 2023年度 大阪産業大学附属高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」は、平凡な日常生活をきちんと送っていくことこそ偉大なことである、地道にたゆまず努力していくことは偉大なことであると教えています。日常生活の大切さ、努力の重要性を説く「偉大なる平凡人たれ」の建学の精神は、今、本校の次のような姿に現れています。

挨拶する声が響きあう学校。  
夜遅くまで自習室で学習する生徒。  
朝早くから自主練習に励むクラブ員。  
生徒一人ひとりの努力をもっと励ましていける学校をつくっていきます。

### 2 中長期的目標

#### 1. 教学改革

- (1) 授業内容の充実
- (2) 人格の形成をめざして
- (3) 生活指導の充実
- (4) 課外活動の活性化

#### 2. 進路指導の発展

- (1) 進路指導部の充実
- (2) 附属高校から大阪産業大学への内部進学対策
- (3) 他大学への進学対策

#### 3. 防災・安全対策

- (1) 防災対策の徹底
- (2) 安全対策の徹底

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2024年1月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 別紙「2023年度 アンケート結果のご報告」参照</p> <p>・「授業アンケート」の結果</p> <p>・「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果</p> <p>・「学校生活についてのアンケート」の結果</p>	<p>令和6年10月1日(火)に学校評価委員会を開催。各委員の意見は以下の通り。</p> <p>保護者より</p> <p>生徒アンケートにおいて、ほとんどの質問に対して肯定的な回答が多いのは素晴らしいと思った。ただ、学習への取り組み、読書への取り組みは他の質問項目に比べると、肯定的な回答が低かったので、読書への取り組みを強化されてはいいか。</p> <p>保護者OBより</p> <p>わが子は今、大学生活を送っているが、文化祭や体育祭をクラス皆で取り組んだことや3年間ともに過ごした仲間との結びつきが今でも強い部活動など、高校生活は楽しかったと言っている。保護者としても子どもが充実した高校生活に満足していることを嬉しく思っている。また、特進コースを卒業した子を持つ保護者の方と話す機会があり、その方から特進コース生徒の在学時の勉強に対する頑張りを知り、コースによって、これほど高校生活で打ち込むことが異なることを初めて知った。</p> <p>地域住民代表より</p> <p>ICTの取り組みについて説明があったが、取り組みが進んでいることに驚いた。進学実績についても説明があったが、わが子も本校の卒業生だが、わが子の在学時と比べると進学実績が大幅に伸びていることに驚いた。</p> <p>大学教職員より</p> <p>大学でも授業アンケートを実施しているが、大学ではオンラインでアンケートを実施しているため回答率が低い。それに比べると高校のアンケートにおいて、肯定的な回答が多いのに驚いている。</p> <p>大学での新生へへのアンケートに「進路決定で大きなウエイトを占めたのは何か」という質問に、他校生は受験雑誌などの回答が多かったが、本校の生徒は学校の進路指導という回答が多く、生徒アンケート結果で「進路指導は情報をよく知らせてくれる」という質問に肯定的な回答が多かったのがよく理解できた。</p>

3 学校の重点目標に対する評価結果

中 期 的 目 標	Plan		Do	Check	Action
	今年度の重点目標	評価指標	取組状況	達成状況	今後の改善方策
1 教 学 改 革	(1)授業内容の充実 ア.魅力ある授業の展開	「授業はわかりやすいですか」(生徒アンケート)への肯定的な回答率90%以上	ICT機器を活用し、生徒の視覚に訴える授業や、生徒が主体的に取り組める授業に取り組んでいます。	肯定的な回答率91%で達成	生徒の主体性を引き出すための授業に引き続き取り組んでいきます。
	イ. ICT 教育の推進	「先生は、プロジェクターなど ICT 機器を積極的に活用している」(生徒アンケート)への肯定的な回答率90%以上	昨年度から入学生に一人一台 Chromebook を所有させ、メタモジやclass-padなどのアプリを活用し、ICT 教育への取り組みを進めた結果、ICT機器の活用率が向上しています。	肯定的な回答率96%で達成	コース・教科の特性に応じたICT機器の活用を進めていきます。
	(2) 人格の形成をめざして ア. 地元から愛される学校づくり	学校関係者評価委員会での地域住民の方の意見	近隣の堇フェスティバル、城東区SARUGAKU祭に生徒会やクラブが参加し、地元の人たちとの交流を深めました。	地域の催しに参加してもらい、非常に盛り上がったとの感謝の言葉をいただきました。	今後も積極的に地元の人たちとの交流をおこない、本校の教育活動に対する理解を深めていただくように努めます。
	イ. 平和・人権教育の推進	「学校はいじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」(生徒アンケート)への肯定的な回答率90%以上	いじめ実態調査(年5回)、人権教育週間(6月)、人権啓発週間(9月)、人権フォーラム(11月)を実施し、人権の啓発に取り組みました。	肯定的な回答率91%で達成	人権教育推進部、教育相談室、保健室を統轄する生徒支援部を昨年からは設置しています。生徒が抱える悩みに迅速に対処できるよう各部署の円滑な連携を深めていきます。
	ウ. 「面倒見の良さ」と「厳しさ」の両面から迫る教育の実践	「授業のルールを守るように先生は注意していますか」(生徒アンケート)への肯定的な回答率90%以上	クラス担任と教科担当者やクラブ顧問、クラス担任と保護者との連携をとりながら、学力・生活指導を進めました。問題を抱える生徒に寄り添う一方で、甘やかせることをせず、指導に当たりました。	肯定的な回答率95%で達成	生徒の授業中の態度については、教員によって生徒への指導に不均衡がないように、教員間で意思の疎通を図っていきます。
	エ. 学校行事を通じて生徒の積極性を引き出す	「生徒は、学校生活によく取り組んでいる」(生徒アンケート)への肯定的な回答率85%以上	コロナ感染症が2類から5類に移行したため、学校行事は行動制限をかけずに実施できました。なかには体育祭のようにコロナ禍で従来の実施場所を変更せざるをえなかったものが意外と好評で、コロナ禍収束後もそのまま定着したものもあります。	肯定的な回答率88%で達成	生徒が積極的に学校行事に取り組み、行事の運営も教員主導から、生徒と教員が協働して作り上げる形に変化しています。
	(3) 生活指導の充実 ア. 挨拶の励行	「生徒は、挨拶をきちんとしている」(生徒アンケート)への肯定的な回答率85%以上	運動部に所属する生徒たちを中心に元気な挨拶が交わされ、その姿が他の生徒にも波及しています。	肯定的な回答率88%で達成	運動部員の元気な挨拶だけでなく、教員から生徒への挨拶も生徒たちに大きな影響を与えているので、今後も継続していきます。
	イ. マナーやモラルの向上	「この学校の生徒は、携帯電話・スマートフォン使用のルールを守っている」(生徒アンケート)への肯定的な回答率80%以上	入学直後の新入生研修で生徒指導部よりSNSの誤った使用をしないように啓発をしています。また、クラスHRや学年集会などでも折に触れて指導しています。	肯定的な回答率80%で未達成	携帯電話に関する校則を遵守する指導とともに、携帯電話使用に関するマナー・モラルの重要性を訴えていきます。

1 教 学 改 革	(4) 課外活動の活性化 ア. クラブ加入率	全校生徒のクラブ加入率 60%以上	本校はクラブ活動と学業との両立を目指す生徒が多くおり、充実した学校生活を送っています。	クラブ加入率50%で未達成	2年 51%、1年 49%(3年生卒業後の数字)と加入率が伸びています。生徒が学校生活を充実させるためにも、クラブへの加入を呼びかけていきます。
	イ. 「強化指定クラブ」の強化	クラブ戦績	強化指定クラブ(アメリカンフットボール部、硬式野球部、サッカー部、ラグビー部、バレーボール部、テニス部、柔道部、ウエイトリフティング部)は、スポーツ推薦制度を活用し優秀な生徒の獲得に努め、熱心で充実した練習で全国大会出場をめざしています。	アメリカンフットボール部 全国大会 ベスト4 ラグビー部 大阪府大会準優勝	全国大会に出場したクラブを見習い、他のクラブも全国大会出場を目指していきます。
	ウ. 文化・芸術活動の充実	芸術鑑賞の充実	生徒の感性に刺激を与えられるように、高校生にとって鑑賞の機会が少ないジャンルの芸能を鑑賞する取り組みを行っています。	本年度は劇団四季の「オペラ座の怪人」を鑑賞しました。	
	エ. 「学業とクラブ活動の両立」をめざして	「クラブ活動と学業を両立させるよう取り組んでいる」(生徒アンケート)への肯定的な回答率85%以上	クラブ顧問、クラス担任がそれぞれクラブに加入している生徒の成績に関心を持ち、適切な指導をおこなっています。	肯定的な回答率89%で達成	
2 進 路 指 導 の 発 展	(1) 進路指導部の充実 ア. 生徒の多様な受験(進路)への対応	「学校の先生は、進路についての情報をよく知らせてくれる」(生徒アンケート)への肯定的な回答率85%以上	系列の大阪産業大学への内部推薦制度を活用して大学進学する生徒を中心に、スポーツ推薦制度、他大学との高大連携プログラムで進学する生徒、一般受験で大学合格をめざす生徒と、多岐にわたる生徒の進路希望に対応する指導を行っています。	肯定的な回答率89%で達成	進路指導部は学年と連携し、進路に必要な情報を共有するようになっています。
	(2) 附属高校から大阪産業大学への内部進学対策 ア. 高大連携の充実	各種説明会の実施	本校進路指導部と大学の入試センターが中心になり、生徒たちが後悔しない進路決定を行えるよう取り組みを行っています。高大連携事業は大学との連携をより充実させるため見直しを図っています。今年度は大学教員から高校教員への学部・学科説明会を導入しました。	予定していた各種説明会は滞りなく実施	本校と大阪産業大学との連携を緊密にし、各種説明会が充実したものになるよう取り組んでいきます。
	(3) 他大学への進学	進学実績の向上	特進コースは、週39時間授業、放課後の特別講座、早朝・終礼テストを実施し、大学入試に合格するための取り組みをおこなっています。	国公立大学の合格者は16名、関関同立の合格者71名、産近甲龍の合格者160名で、特進コースの難関大学への合格者数が大きく伸びました。	特進コースを中心に、進学実績の向上に努めていきます。

3 防 災 安 全 対 策	(1) 防災対策の徹底 ア. 防災意識の向上	防災訓練	避難経路を確認させながら、生徒を校庭に誘導する避難訓練を行う予定でしたが、雨天のため中止となりました。しかし、生徒に火災や地震が発生したときに発動する火災報知器や緊急地震速報の音を放送し周知させるとともに、避難経路も確認させました。	実際の移動を伴う訓練はできなかったが、生徒たちの防災への意識を高めることはできたと思います。	災害発生時に近い状況を想定した訓練の実施を計画していきます。
	(2) 安全対策の徹底 ア. 通学時における安全対策の強化	「生徒は、自転車や歩行の交通ルールを守っている」(生徒アンケート)への肯定的な回答率85%以上	「交通安全週間」を設け、各クラスで担任が、特に自転車の乗車マナーの向上やルールの遵守について啓発しました。	肯定的な回答率85%で達成	折に触れて、クラス担任を通じ、生徒に乗車マナーの向上について啓発していきます。